

雇用促進へ 企業に農園貸し出し

農業を通して障害者の就労を支援する「わーくはびねす農園 柏ファーム」が柏市藤ヶ谷新田に開設された。農園を企業に貸し出し、その企業に農園で働く障害者を雇ってもらい、雇用を促進する。企業にとつて、一定の割合で義務づけられている障害者の雇用は大きな課題。農園が障害者雇用の受け皿となり、企業と障害者の橋渡しをする。

橋渡し役「柏ファーム」を開設

5日にあった開園式で、農園を管理・運営する障害者就労支援会社「エスフルプラス」（東京都）の和田一紀社長（42）は「一人でも多くの障害者雇用を創出し、社会に貢献するという企業理念を掲げて農園を運営している」と語った。

2010年にスタートした企



ビニールハウスで作業をする企業の社員＝柏市藤ヶ谷新田

業向けの貸農園は、市原市に2カ所、茂原市に2カ所、千葉市と船橋市、愛知県に各1カ所ある。県内7カ所目、全国では8カ所目となる柏市の農園の敷地は約2・6畝と大規模になる。すでに野菜作りをするビニールハウスが24棟完成し、今後、計32棟まで増やす計画だ。

雇用の仕組みはこうだ。農園で農作業の指導を受けた障害者を企業が企業に紹介する。企業は利用料を払って農園の一部の区画を借り、障害者を社員として直接雇用する。小松菜やレタス、トマト、ナスなど約40種類を作り、収穫された農産物は企業が社内で配布したり、社員食堂の食材に使ったりしているという。

これまでの7カ所の農園では、企業130社が参画し、計約560人を雇用しているという。定着率は95%に上り、就職が難しい知的障害者が71%を占

める。柏市の農園ではすでに6社が参画し、26人が雇用された。最終的には20社前後になり、計100人近くの雇用が生まれる見込みだ。

企業に義務づけられた障害者の法定雇用率は、現在の2・0%から来年4月には2・2%に引き上げられる。現状では法定雇用率を達成できない企業はまだ多い。エ社によると、企業が障害者を本業で雇うのは職種によって難しく、特に知的・精神障害者の就職は厳しいという。

エ社は「農業なら自然と触れあいながら無理なく働ける」としている。柏市で参画するワイヤロープ大手の東京製綱は障害者6人を雇用。中原良取締役は「障害者雇用については、社会的にきちんと責任を負わないといけない」と話す。

就職した障害者にとつての魅力は給与だ。軽度の知的障害がある柏市の荒田篤さん（41）は農業資材会社が借りた農園で働く。給与は月約10万円。「満足。仕事も楽しい」と言う。父の優さん（67）は「ありがたい。自立の芽が出てくる。自信もつてきたような感じがする」と喜ぶ。エ社の和田社長は「障害者が普通にお金を稼ぎ、普通の生活ができるようにしたい」と話している。

（上嶋紀雄）